



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

広領域連携型基幹研究プロジェクト キックオフ・シンポジウム

人文学の知の展開

健康・地域文化・書物

人文学の危機が叫ばれる今日、人文学の新たな知のあり方に関心が集まっています。人間文化研究機構は、現代社会の問題解明に向けた総合的な人間文化研究へと人文学の知の展開をはかるべく、平成28年4月より、国内外の研究機関や地域と連携し、広領域の学問分野の協働により新領域を創出する「基幹研究プロジェクト」を始動します。

本シンポジウムは、特に現代社会における「健康」・「地域文化」・「書物」をテーマとして、各分野で先駆的な取組みをされている実践者の方々をお迎えし、自然と人間との向き合い方を改めて問い直し、人間文化の新たな価値の創出に向けた研究の展望を見出します。



日時—2016年

3月19日^土

会場—

コクヨホール

東京都港区港南1-8-35

10:00-16:30

開場—9:30



アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開

プロジェクト概要説明 ハイン・マレー (総合地球環境学研究所 教授)

講演 高田礼人 (北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 教授、ウイルス学)

異分野融合による総合書物学の構築

プロジェクト概要説明 田中大士 (国文学研究資料館 教授)

対談 長谷川 聡 (長谷川和紙工房代表、美濃和紙伝統工芸士)

杉本一樹 (宮内庁正倉院事務所長、日本古代史・正倉院文書研究)

日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築

プロジェクト概要説明 小池淳一 (国立歴史民俗博物館 教授)

対談 新国 勇 (只見の自然に学ぶ会 代表)

奥村 弘 (神戸大学大学院人文学研究科教授 / 神戸大学地域連携推進室長、
日本近代史・地域遺産の保存活用の実践研究)

映画上映

「うっし世の^{しじま}静寂に」(特別編集版) 由井 英 監督

主催—人間文化研究機構 後援—文部科学省



参加無料

要・参加申込み
定員: 300名

先着順
定員に達し次第
締め切ります

人文学の知の展開 健康・地域文化・書物

● 広領域連携型 基幹研究プロジェクト

アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開

社会変容と環境変化が急速に進む近現代における「健康」を、人々の暮らしや生態環境との関わりから探求する「エコヘルス」研究に、特にアジア地域の環境や食文化と健康をめぐる問題や、歴史的な「健康」概念の考察等の学際的な人間文化研究の観点から取り組み、アジアの「エコヘルス」学と研究ネットワークの創成を目指す。

異分野融合による総合書物学の構築

古来伝わってきた書物(歴史的典籍)には、その内容に加えて、紙・墨・装訂法など、多くの先人の知恵が蓄積されている。書物がもつ豊富な情報を掘り起こし、多分野連携による総合的観点からの分析を通じて書物の意味を改めて問い直し、その可能性を見出す新たな学問領域として、「総合書物学」の構築を目指す。

日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築

日本列島では現在、地域社会の変貌や災害によって、その多様性が失われつつある。本プロジェクトは、こうした現状がもたらす諸問題の解明に向けて、言語・史料保存・表象システム・環境保全等を切り口として、地域社会とそこでの拠点形成をめぐる、地域にかかわるさまざまな人々との実践的な議論を積み重ねることを通じて、地域文化の再構築を目指す。

● 講演者

高田礼人(たかだ あやと)

北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター教授。専門はウイルス学(特にエボラウイルスとインフルエンザウイルス)。人と動物の両方に感染するウイルスによる感染症を対象とし、地球規模のウイルスの生態学から分子レベルの現象まで幅広く基礎研究を行うとともに、診断法や治療法の開発も進めている。

長谷川 聡(はせがわ さとし)

美濃和紙伝統工芸士。故高田行三氏に師事して伝統的な美濃紙の工法を学び、1994年に長谷川和紙工房として美濃紙の製造を開始。古くは1300年前の正倉院文書に使われ、重要無形文化財、ユネスコ世界無形文化遺産にも登録される本美濃紙の技術継承者からなる保存会会員であり、国内外に美濃和紙の魅力を伝える活動も展開している。

杉本一樹(すぎもと かずき)

宮内庁正倉院事務所長。専門は日本古代史。正倉院に伝わる文書・経巻を中心に、30年以上にわたって古代の文物研究に携わる。著書に『正倉院』(中公新書)、『日本の美術 正倉院の古文書』(至文堂)、『日本古代文書の研究』(吉川弘文館)、『正倉院 あぜくら通信』(淡交社)など。

新国 勇(にっくに いさむ)

只見の自然に学ぶ会代表。只見町役場職員として、町史編さん事業やブナ林総合学術調査に携わり、民具の国重要民俗文化財指定、世界ブナ・サミットの開催、只見町ブナセンターの設立に尽力する。2008年退職し、現在は民宿を営む。ブナやユビソヤナギなど地域の自然の価値を見直すことによるまちづくりを目指している。「いまある資源に気付けば地域は活性化する」が持論。

奥村 弘(おくむら ひろし)

神戸大学大学院人文学研究科教授/神戸大学地域連携推進室長。日本近代史を専門とし、日本近代国家における地域社会の形成のあり方を研究。神戸市等の自治体史の編さんにも携わる。阪神淡路大震災以降は、歴史資料ネットワークの代表委員として地域歴史文化遺産の保存活用の実践的研究も行う。著書に、『大災害と歴史資料保存 阪神・淡路大震災から東日本大震災へ』(吉川弘文館)など。

● スケジュール

- 10:00 ~ 10:15 開会の辞 立本成文(人間文化研究機構長)
- 来賓挨拶 小松弥生(文部科学省研究振興局長)
- 企画趣旨 平川 南(人間文化研究機構理事)
- 10:15 ~ 11:10 「アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開」
- 11:10 ~ 12:15 「異分野融合による総合書物学の構築」
- 12:15 ~ 13:10 昼食
- 13:10 ~ 14:15 「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」
- 14:15 ~ 15:15 映画上映「うっし世の静寂(しまに)」由井 英 監督
- 15:15 ~ 15:25 休憩
- 15:25 ~ 16:25 パネルディスカッション
- 司会 木部暢子(国立国語研究所教授)
- パネリスト
高田礼人、長谷川 聡、杉本一樹、新国 勇、奥村 弘
- 16:25 ~ 16:30 閉会の辞 小長谷 有紀(人間文化研究機構理事)

● 上映映画紹介

しまに うっし世の静寂に(特別編集版)

監督 由井 英
2016年完成 / 60分(2010年完成の長編映画(96分)の再編集版)



© ささらプロダクション © みつはしあやこ

人の暮らしは今も昔も自分の力や家族の支えだけでは成り立たず、様々な人々の助けを必要とする。みんなで力を合わせて物事を達成するときに、我々の先祖は何を抛り所にしてきたのか。川崎市宮前区初山では今も様々な「講」が生まれ、人々が支え合いながら生きている。映画は最後に明治時代の神社祭祀により、社を失った「杜(もり)」の中で獅子舞が再現されていく姿を記録する。三世代が同じ舞を繰り返す姿に、講によって育まれてきた人々の安らかな心情が浮かび上がる。



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

〒105-0001
東京都港区虎ノ門4-3-13
ヒューリック神谷町ビル2階
TEL:03-6402-9200
<http://www.nihu.jp/>

会場—コクヨホール

〒108-8710
東京都港区港南1丁目8番35号
コクヨショールームサービス株式会社
TEL:03-3450-3712
(受付時間 09:00 ~ 17:30)

● アクセス
JR品川駅港南口(東口) 徒歩5分

